

2024 年度 後期 教養教育		日英区分 : 日本語
Webアプリケーション開発入門		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
LB2343	LB-1-AS0048-J	【教養教育】学びのリテラシー（2）
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
小川 康一 [Ogawa, Koichi]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
		2

■ ■ 授業の目的

本授業では、社会において広く利用されている情報システムやサービスについての成り立ちや動作原理を学び、これらの背景にある技術要素についての理解を深めるとともに、自ら基本的なWebアプリケーションを組み、実際の動作を確認出来るようになることを目的とする。コンピュータシステム、ネットワークシステム、クラウド基盤の構築・運用の実務経験のある教員がそれらの経験をふまえた授業を展開する。

■ ■ 授業の到達目標

Webサービスの仕組みを理解し、説明ができる。
PHPとMySQLを用いて基本的なWebアプリケーションを構築できる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
B：論理的・創造的思考力 ○
C：コミュニケーション能力 ○
D：社会的倫理観・国際性 -

■ ■ 授業概要

情報システムやWebサービスについての知識を得るとともに、これらの背景にある技術要素について理解し、自ら基本的なWebアプリケーションを開発する。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

授業の前半は、講義により情報システムおよびWebサービスについて学び、都度各自のPCにより演習を行う。授業の後半は、何名かで構成するグループに分かれ、普段感じている課題や不便さについて話し合い、これを解決する独自の新しいシステムやサービスについて、調査、議論、検討を行う。独自に検討したシステムについて、できるだけ実際に実装を行い、その機能や効果を検証する。最終成果は、講義内でグループごとに発表を行う。

■ ■ 授業スケジュール

第1回 ガイダンス・イントロダクション
第2回 環境設定・ソフトウェアインストール
第3,4,5,6回 PHPによるプログラミング
第7,8回 データベースについて、MySQL (MariaDB) のインストール、PHPからのデータベースの利用
第9,10,11,12,13, 14回 PHPアプリケーションの実装、グループワーク
第15回 グループ発表

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技

課題を出しますので、自ら積極的にアプリケーションを作成し、できたものがどのような動きをするか確認すること。後半は、Webサービスの調査、開発についてグループで協力して取り組むこと。
なお、授業時間内だけでは、全ての知識を網羅することは困難であるため、動画コンテンツや補助教材を利用し、プログラミングを行ったことがない学生に対する配慮を行う予定である。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

小テスト (20点) A, B
グループ評価 (20点) A, B, C
最終課題 (40点) A, B, C
教員評価 (20点) A, B, C

■ ■ 受講条件（履修資格）

授業にノートパソコンを持参してください。
OSはWindowsもしくはMac OSを推奨しますが、Linuxでも問題ありません。

■ ■ メッセージ

自分で実際にやってみないと分かりません。手を動かしてどのような動作をするか確認してください。
可能であれば習得した方法を使って自分でプログラムを作ってみましょう。

■ ■ キーワード

■ ■ この授業の基礎となる科目

情報、Linuxリテラシー入門

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

参考書1	ISBN	4295201103				
	書名	初心者からちゃんとしたプロになるPHP基礎入門				
	著者名	柏岡秀男 著, 柏岡, 秀男,	出版社	エムディエヌコーポレーション	出版年	2021
	備考					

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

参考書の購入は必須ではありませんが、記載内容に沿って講義します。
中央図書館にありますので必要に応じて参照してください。

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=3112>

■ ■ 授業言語

参考書・資料：「日本語」

講義・討論：「日本語」

2024 年度 前期 教養教育		日英区分 : 日本語	
生態系と環境			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
LB1276	LB-1-NS0011-J	【教養教育】自然科学科目群	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
西村 尚之 [Nishimura Naoyuki]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数	
		2	

■ ■ 授業の目的

現代の様々な環境問題、特に、生物との関わりが深い問題を理解するためには、生態学の知識が重要である。生態学は自然界における生物の生命活動をその生物群を取り巻く環境と関連させて学問する生物学の1分野である。そこで、本講義では、同種個体の集まりである個体群や異種個体群で形成された生物群集の特徴を理解し、これらの生物集団と環境との相互作用系である生態系に関する正しい認識から私たち人間の生存にかかわる自然界で起こる課題について説明できるようになることを目的とする

■ ■ 授業の到達目標

生物個体、個体群、群集とはどのようなものか具体的にイメージできる。
生物間相互作用と群集の成り立ちや機能について考察できる。
生態系と人間環境との関係を正しく理解できる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
B：論理的・創造的思考力 ○
C：コミュニケーション能力 -
D：社会的倫理観・国際性 △
（○：特に重視する ○：重視する △：評価対象 -：評価対象としない）

■ ■ 授業概要

自然界の生物は、何らかの形で集団を成して生育している。自然界における生物の存在は、個体、個体群、群集などといったさまざまなレベルで観察される。そのような生命現象には普遍的な性質が存在し、一方、生命体のすがただけでなく生命体の演ずる現象もまた多様である。これらを具体的にイメージして理解することは難しい。そこで、このような生物圏に関する知識を科学的に理解するために、生態学の基礎に立ち、実際の科学的なデータを取り上げながら、講義を行う。なお、本講義は環境アセスメント・環境政策・農林業普及教育の実務経験のある教員が、その実務経験を活かして、生物集団と環境との関係についての授業を行う。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

大学全体の講義開講形態の方針により講義形式・スケジュール・評価方法が変更になることがあります。その場合には教務システムなどの掲示により本講義の講義方法についての資料を提示します。なお、以下には例年の講義形式を示します。
通常の講義形式であるが、生物現象について理解するためには視覚的な教材も必要である。そのため、スライドやビデオなども活用する。

■ ■ 授業スケジュール

大学全体の講義開講形態の方針により講義形式・スケジュール・評価方法が変更になることがあります。その場合には教務システムなどの掲示により本講義の講義方法についての資料を提示します。なお、以下には例年のスケジュールを示します。

- 第1回 ガイダンス：履修上の注意と本講義の内容（生物学の中の生態学）
- 第2回 生態系と自然環境：生命の共通性と地球上での生物の存在
- 第3回 生物種の分類と種数：地球上に存在する生物種数と進化
- 第4回 生物集団の特徴：生物と環境要因、および生物個体群の特徴
- 第5回 個体群の成長過程：生物増殖（出生と死亡）のモデル（指数モデルとロジスティックモデル）
- 第6回 生態系の成り立ち1：生物群集と生態系の安定性
- 第7回 生物間の相互作用：種間の競争排除の原理とニッチ（生態的地位）とすみわけ
- 第8回 生物進化と生存戦略：自然選択と様々な生活史戦略
- 第9回 生態系の成り立ち2：生態系における物質生産の役割
- 第10回 生態系の成り立ち3：生態系における物質循環の役割
- 第11回 世界のバイオーム（生物群系）：生物集団の地理的分布と地球上の様々な生態系
- 第12回 日本の植生：日本の森林生態系の成立条件とその特徴
- 第13回 植生の遷移と森林の維持機構：生態系の変化と植物群集の移り変わりの仕組み
- 第14回 生物多様性と生態系：生物多様性とは（種多様性の指標と生態系の機能・サービス）
- 第15回 まとめ（生物圏と地球環境）：生態系保全に必要なことは何か？

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

指定された教科書の予習と復習

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

大学全体の講義開講形態の方針により講義形式・スケジュール・評価方法が変更になることがあります。その場合には教務システムなどの掲示により本講義の講義方法についての資料を提示します。なお、参考として例年の評価基準を以下に示します。

課題（30%）、学期末の筆記試験（70%）により評価する。筆記試験は100点満点の問題を出題し、評価には各自のこの筆記試験の素点×0.7とした点数を使用します。

関連するDPは以下の通りです

A：諸科学についての基礎的知識と理解○

B：論理的・創造的思考力○

D：社会的倫理観・国際性△

課題や試験の評価基準は、生物個体、個体群、群集を具体的に説明でき、かつ、生物間相互作用と群集の成り立ちや機能を理解して、生態系と人間環境との関係を考察できるレベルを判定して、これらを総合的に判断して最終成績を決定する。

■ 受講条件（履修資格）

生物に興味があること。

■ メッセージ

出席回数が全講義（15回）の3分の2以上の場合に限り筆記試験の受験を認める。特別な理由がなく、自己都合により第1回目ガイダンスかつ第2回目の講義を受講しないものには履修を認めない場合がある。出席や課題などにおいて規律違反をした学生には絶対に履修を認めない。また、許可無く講義中のパソコンやタブレット・スマートフォン・携帯電話の使用を認めない。

■ キーワード

生態学、生物群集、個体群、生態系、生物圏、生物多様性、実務経験

■ この授業の基礎となる科目

特になし

■ 次に履修が望まれる科目

特になし

■ 関連授業科目

特になし

■ 教科書

教科書1	ISBN	9784320057869				
	書名	大学生のための生態学入門				
	著者名	原 登志彦(監修)・西村 尚之(著)	出版社	共立出版	出版年	2017
	備考	必ず購入すること				

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

■ 授業言語

日本語

2024 年度 後期 教養教育		日英区分 : 日本語
知っておきたい肺とアレルギーの話		
■ 時間割コード	■ ナンバリング	■ 科目分野
LB2207	LB-1-HS0011-J	【教養教育】健康科学科目群
■ 担当教員（ローマ字表記）		
久田 剛志 [Hisada Takeshi]		
■ 対象学生	■ 対象年次	■ 単位数
		2

■ 授業の目的

肺は、酸素を取り込み二酸化炭素を吐き出す臓器である。常に外界（周りの空気）と触れ合っているため、多くの病気がおこりえる。アレルギーを含めた呼吸器の疾患について、医療関係者のみならず、皆が知っておきたい肺とアレルギーの基本的知識についてやさしく解説する。呼吸器を中心として、病気の成り立ちや予防法、治療法の基礎を理解し、今後の生活、職業、研究などに役に立つ基本的な知識を身に付けることができるようになる。以上のことを目的とする。

■ 授業の到達目標

教養教育の科目であり、専門知識がなくても理解できるレベルである。
以下を到達目標とする。
基本的な呼吸の仕組み、肺の働きについて説明できる。
代表的な呼吸器疾患の成り立ちを説明できる。
呼吸器疾患やアレルギー疾患の予防法や治療法の基本について説明できる。

■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
B：論理的・創造的思考力 ○
C：コミュニケーション能力 △
D：社会的倫理観・国際性 △

この科目を受講することによって、人体の巧妙な仕組みと各種疾患が発症するメカニズムを理解することはいろいろな学部の特設教育にも通じるところがある。また、自己の健康管理にも役立つものである。

■ 授業概要

呼吸機能について、また喫煙の健康への影響、呼吸器疾患とアレルギー（肺癌、結核、肺炎、睡眠時無呼吸症候群、喘息、花粉症など）をやさしく、予防法なども含めて解説する。呼吸器学会専門医、アレルギー学会専門医、感染症専門医である教員が、その実務経験を活かして授業を行う。

■ 授業の形式（授業方法）

講義形式が主体である。

■ 授業スケジュール

全担当：久田剛志

- 第1回 肺の働き、呼吸の役割
第2回 タバコの影響・・・軽いタバコならいいのでしょうか？ 新型タバコは？
第3回 タバコ病である肺気腫（COPD）を知り、あとで後悔しないようにしましょう
第4回 肺がんを知り、予防に心がけましょう
第5回 睡眠中に息がとまっていませんか？ 睡眠時無呼吸症候群
第6回 結核、なぜマスコミで騒がれたのでしょうか？
第7回 まとめ①
第8回 肺炎・インフルエンザ 超高齢社会において
第9回 アレルギーは、どうしておこるのでしょうか？
第10回 喘息はなぜおこるのでしょうか？ 予防と治療は？
第11回 花粉症を何とかするには？
第12回 鳥の飼い主などを襲う息苦しい病気 - 過敏性肺炎
第13回 環境や職業によっておこる肺の病気？
第14回 食事による病気の予防！ 呼吸器疾患やアレルギーにも・・・
第15回 まとめ②
第16回 試験

※ 予定が変更になる場合には、随時連絡します。

■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。
学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技

毎回資料またはプリントを用意する。Moodleにより予習また復習し、知識を確実なものにして欲しい。
毎回のリアクションペーパーについて記載し提出する。
試験は記述式問題が中心であり、プリント、資料内容を理解していれば解答できる。

■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

各回で課されたリアクションペーパーの記述内容および講義内容に関して課される最終筆記試験の結果などを総合的に評価する。
基本的理解 A・B・C
レポートの適切な記載 A・B
履修の手引きに記載されたルーブリックに基づいて行われる。

最終レポート（70%）、各授業における課題（30%）（A,B,C,D）で評価する。

S評価、90点以上かつ受講者のなかで特に優れていると判断される者、A評価、80点以上でS評価以外の者、B評価、70-79点の者、C評価、60-69点の者、D評価、60点に満たない者。ただし試験問題の難易度によって評価を調整する場合もある。

■ ■ 受講条件（履修資格）

全学部生

■ ■ メッセージ

肺の病気は、年齢を問わず発症し、様々なものがある。病気の本質とその予防法を理解し、健康な生活を送れるように今から努めよう。新しい健康に関する話題も随時取り入れてやさしく解説していく。

■ ■ キーワード

肺、呼吸器、喫煙、肺がん、結核、アレルギー、喘息、睡眠時無呼吸症候群、 ω 3脂肪酸、アクティブラーニング、実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

Moodleから講義で使用する資料、プリント等を見ることができる。必要に応じてプリントを配布する。

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=3430>

■ ■ 授業言語

教科書・資料：「日本語と英語」

講義・討論：「日本語」

2024 年度 後期 教養教育		日英区分 : 日本語
がん予防・治療・ケア		
■ 時間割コード	■ ナンバリング	■ 科目分野
LB2440	LB-1-HS0002-J	【教養教育】健康科学科目群
■ 担当教員（ローマ字表記）		
近藤 由香 [Kondoh Yuka], 小澤 厚志 [Ozawa Atsushi], 京田 亜由美 [Ayumi Kyota]		
■ 対象学生	■ 対象年次	■ 単位数
		2

■ 授業の目的

学生は、がん予防・治療・ケアについての基本的な知識を学ぶ。学生は、学んだがん予防・治療・ケアについての基本的な知識を、自分および身近な周囲の人の医療行動に役立てる必要性を理解する。

■ 授業の到達目標

- 日本や群馬県におけるがん対策について説明できる。
- がんの疫学・がん予防に必要な生活習慣を説明できる。
- がんの治療であるがん薬物療法、放射線療法、手術療法を説明できる。
- 3大治療に伴うケアの方法を説明できる。
- がん治療における意思決定支援の必要性を述べることができる。
- 緩和ケアの概念の変遷から必要性を述べることができる。
- がん看護における家族ケアの必要性と方法を述べることができる。
- がんや治療に伴う様々なストレスを緩和する方法について説明できる。

■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
B：論理的・創造的思考力 ○
C：コミュニケーション能力 ○
D：社会的倫理観・国際性 ○

■ 授業概要

本科目は、医師、看護師の実務経験のある教員が、実務経験を活かして授業を行う。

第1回、4～15回は看護師の実務経験がある近藤由香と京田亜由美が担当する。第2、3回は、医師である小澤厚志が担当する。

がん医療の動向、がん医療をめぐる一次・二次・三次予防の意味を知る。がん発病にいたるメカニズムと主な治療を理解し、がんを予防するための生活習慣について学ぶ。また、がんの早期発見のための検診や自己チェックの方法について理解を深める。それをもとに自分自身の生活を振り返りがんを予防する生活習慣を獲得できるような動機付けとする。さらに治療選択における患者と医師・看護師との関わり、がん薬物療法・放射線療法・手術療法を受ける患者の症状マネジメント、患者の身体・心理的变化を知り、がん治療におけるセルフマネジメントのあり方を考える。さらに終末期における医療を受ける場、緩和ケア・ホスピスケアについての知識を深め、がん医療・ケアについて考える。

■ 授業の形式（授業方法）

講義・一部演習形式

■ 授業スケジュール

No.	内容
第1回	がんの疫学、がん医療をめぐる国・県の政策について学ぶ 10/3 近藤由香
第2回	がん発症メカニズムについて学ぶ 10/10 小澤厚志
第3回	がんの診断、検査について学ぶ 10/24 小澤厚志
第4回	がん予防のための生活習慣について学ぶ 10/31 近藤由香
第5回	がん治療：がん薬物療法とケアについて学ぶ 11/7 近藤由香
第6回	がん治療：放射線治療とケアについて学ぶ 11/14 近藤由香
第7回	がんに伴うストレスを緩和し免疫を高める方法を学ぶ 11/21 近藤由香
第8回	緩和ケア、ホスピスケアについて学ぶ 11/28 近藤由香
第9回	グループワーク 12/5 近藤由香
第10回	グループワーク 12/12 近藤由香
第11回	プレゼンテーション 12/19 近藤由香
第12回	外科治療をうけた患者の身体・心理的变化について学ぶ

	1/9 京田亜由美
第13回	がん治療の意思決定について考える 1/16 京田亜由美
第14回	終末期にある家族のケアについて学ぶ 1/23 京田亜由美
第15回	まとめ 1/30 近藤由香

■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技

講義中に課題や参考図書を提示する。復習を行いレポートを作成すること。自己の考えが述べられているレポートを期待します。

■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

- ・課題レポート（70点）A・B・D
- ・プレゼンテーション（30点）A・B・C

出席日数が3分の2に満たないものは評価を受けることができないので注意すること。

成績の評価は、S（90点～100点）、A（80点～89点）、B（70点～79点）、C（60点～69点）、D（59点以下）の5段階とし、S、A、B及びCを合格とし、Dを不合格とする。問題の難易度により、点数を調整する場合がある。

<評価担当者>

- ・課題レポート：近藤由香
- ・プレゼンテーション：近藤由香

■ 受講条件（履修資格）

特になし

■ メッセージ

積極的な質問を歓迎します。

■ キーワード

がん予防、セルフケア、がん治療、緩和ケア、実務経験、アクティブラーニング

■ この授業の基礎となる科目

特になし

■ 次に履修が望まれる科目

特になし

■ 関連授業科目

特になし

■ 教科書

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

なし

■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/>

■ 授業言語

教科書・資料：日本語
講義・討論：日本語

2024 年度 前期 教養教育		日英区分 : 日本語
生命保険の仕組みと活用を考える		
■ 時間割コード	■ ナンバリング	■ 科目分野
LB1279	LB-1-IS0041-J	【教養教育】総合科目群
■ 担当教員（ローマ字表記）		
杉山 学 [Sugiyama Manabu], 小久保 厳 [Kokubo, Gen]		
■ 対象学生	■ 対象年次	■ 単位数
		2

■ 授業の目的

社会保障制度の仕組みや自助努力で将来に備えることの重要性を理解し、リスクを回避・抑制する手段の一つである生命保険の仕組み・役割等について学ぶことを通じて、これからの持続可能な社会を営む一員として役に立つ知識・考え方の習得を目指す。

■ 授業の到達目標

社会保障制度の概要やその主な保障内容を理解し、説明することが出来る。
現代生活に潜むリスク、生命保険の意義・役割、基本的な仕組み等を理解し、説明することが出来る。
大学生として、公的保障と私的保障のあるべき姿について、自分なりの考察を加えて整理し、説明することが出来る。

■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ◎
B：論理的・創造的思考力 ◎
C：コミュニケーション能力 ○
D：社会的倫理観・国際性 ○

■ 授業概要

この授業では、まず私たちを取り巻く経済環境について概観する。
その理解の上に立ち、少子高齢化社会の一層の進展により、表面化している社会保障制度の諸課題を背景に、公的保障と私的保障の多様なあり方や、私的保障（生命保険）の意義、自助努力の必要性や有用性について理解し、考察を深めていく。
また、グループ単位で課題分析・解決策等を議論し、提言としてまとめあげるグループディスカッションも予定している。
全ての講義において、大手生命保険会社の役員・管理職等を歴任し、生命保険事業全般に深く精通した幅広い知識・経験・実績を有する講師陣が担当する。
経験談や最新の情報提供も随所に織り込み、理論と実践の両面から理解を深めていく。

■ 授業の形式（授業方法）

講義と演習（グループディスカッション）。
演習（グループディスカッション）は2回程度、少人数に分かれて与えられたテーマに対する解決策の議論等を行う。

■ 授業スケジュール

- 1：オリエンテーション・総論
 - 2：生活設計とリスク管理
 - 3：生活設計と社会保障
 - 4：公的保障と生保(死亡・医療)
 - 5：公的保障と生保(老後・年金)
 - 6：隣接業界・生保の組織・業務
 - 7：グループディスカッション①
 - 8：生保商品の変遷・動向
 - 9：生保の資産運用
 - 10：生活設計と資産運用
 - 11：生命保険と税金
 - 12：トラブル・災害対応とSDG'sへの取り組み
 - 13：グループディスカッション②
 - 14：グループディスカッション② 発表
 - 15：総括（小テスト）
- ※受講生の理解度や履修人数によっては、内容・順番を見直す場合があります。

■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学期で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技

授業で使用した資料に基づいて一時間程度の復習を行うことが、内容理解において必要です。復習として小レポートの課題を行い提出する。

■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

<対面授業の場合>

授業への参加度+（受講回によって実施）小レポート等の内容」70点（A,B,C,D）

「最終試験得点」30点（A,B,D）で評価します。

最終試験は学期末に実施します。下記の観点から評価を行います。

- ・ 社会保障制度の概要の理解
- ・ 生命保険の意義・役割・仕組等の理解

小レポート（A,B,D）、グループディスカッション（B,C）では、課題に対して自分なりにどのように考察し、それを説明できているかを評価します。

<オンライン授業となった場合>

毎回の課題提出を基本に、受講状況を見ながら、総合的に評価することとします。

最終試験は実施しませんが、商品提案ディスカッション、及び、最終提出レポートでは、

課題に対して自分なりにどのように考察し、それを説明できているかを評価します。

■ ■ 受講条件（履修資格）

■ ■ メッセージ

少子高齢化の進展を踏まえた社会保障制度の改革状況について、メディア等を通じて情報収集し、課題認識の向上を図ると、より講義が楽しく理解できるようになると考えます。その上で、生活設計・生命保険について学ぶことは、それぞれの人生について考える大変有益な機会にもなると考えます。

■ ■ キーワード

公的保障と私的保障

公助と自助

生活設計

リスク管理

実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

毎回の講義時に資料を配布する。

■ ■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=3467>

■ ■ 授業言語

教科書・資料：日本語

講義・討論：日本語

2024 年度 前期 教養教育		日英区分 : 日本語
Linuxリテラシー入門		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
LB1280	LB-1-IS0092-J	【教養教育】総合科目群
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
小川 康一 [Ogawa, Koichi]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
		2

■ ■ 授業の目的

本講義は、Linuxの概要について学ぶとともに、オペレーティングシステムの操作基礎について習得するための科目である。講義には、数多くあるUNIXシステムの一つであるLinuxを用いる。今やLinuxは、クラウドコンピューティングをはじめ、社会を支える多くの情報システム、サーバで数多く利用されている。コンピュータシステム、ネットワークシステム、クラウド基盤の構築・運用の実務経験のある教員がそれらの経験をふまえた授業を展開する。

本講義の内容は、LinuC（リナック）レベル1相当に準拠します。（すべてを網羅できるとは限りません）

■ ■ 授業の到達目標

- シェルを用いて Linux 上でファイルを管理(ファイルの移動・消去)できる。
- ファイルのパーミッションを理解し、自分で設定できる。
- ファイルエディタを用いて、テキストファイルを作成できる。
- シェルスクリプトを用いて、単純な一連の動作を自動化できる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
B：論理的・創造的思考力 ○
C：コミュニケーション能力 -
D：社会的倫理観・国際性 -

■ ■ 授業概要

本講義では、コマンドラインを用いたファイル操作や、エディタを用いたテキストファイルの作成方法を学びます。これらの基礎知識をもとに、簡単なシェルスクリプトの作成を行います。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義は主に座学で行いますが、Linuxを操作するためのノートパソコンを持参していただきます。OSがWindowsやMacであっても学習できるように演習用サーバを使用して講義を行います。講義の中では、必要に応じてご自身のPCに仮想マシン環境を構築し、Linuxをインストールしていただきます。

■ ■ 授業スケジュール

※講義の進捗状況により一部内容が変更となる場合があります。

- 第01回 ガイダンス / Linuxとは
第02回 実習環境整備（演習サーバへの接続・簡単なコマンド実行）
第03回 基本コマンド1
第04回 ここまでのまとめ・OSインストール
第05回 OSインストール・関連情報・正規表現とパイプ
第06回 基本コマンド2
第07回 エディタ
第08回 ネットワーク
第09回 プロセス管理
第10回 ファイル管理
第11回 シェルスクリプト
第12回 シェルスクリプトの発展（シェルスクリプト・ファイル表示ほか）
第13回 シェルスクリプトの発展（シェルスクリプト・条件分岐ほか）
第14回 シェルスクリプトの発展（シェルスクリプト・端末からの読み込みほか）
第15回 まとめ

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学期で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

実際に操作してどのような動きをするのか確認すること。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

提出課題（計3回）（30点）A, B

小テスト（必須、計3回）（50点）A, B

教員評価（20点）A, B

※状況によりレポート等を課す場合があります。

■ ■ 受講条件（履修資格）

授業にノートパソコンを持参してください。

OSはWindowsもしくはMac OSを推奨しますが、Linuxでも問題ありません。

（※利用する演習サーバの仕様上、受講人数制限があります）

メッセージ

近年、クラウドコンピューティングの利用が増えていますが、今もサーバのOSとしてLinuxが盛んに利用されています。シェルの操作は運用管理に必須の知識です。ぜひ手を動かしてOSの動作を学んでください。

キーワード

UNIX、Linux、Shell、シェルスクリプト、実務経験

この授業の基礎となる科目

情報

次に履修が望まれる科目

Webアプリケーション開発入門

関連授業科目

教科書

教科書1	ISBN					
	書名	Linux標準教科書 (Ver.3.0.4)				
	著者名	宮原徹 (著), 川井義治 (著), 岡田賢治 (著), 佐久間伸夫 (著), 遠山洋平 (著), 田口貴久 (著)	出版社	LPI-Japan	出版年	2022
	備考	https://linuc.org/textbooks/linux/				

参考書

参考書1	ISBN	9784797369847				
	書名	新Linux/UNIX入門				
	著者名	林晴比古著	出版社	ソフトバンククリエイティブ	出版年	2012
	備考					

参考書2	ISBN	4797380942				
	書名	新しいLinuxの教科書				
	著者名	三宅英明, 大角祐介著	出版社	SBクリエイティブ	出版年	2015
	備考					

参考書3	ISBN	9784798166162				
	書名	LinuCLレベル1 : Version10.0対応				
	著者名	中島能和著	出版社	翔泳社	出版年	2020
	備考					

参考書4	ISBN	9784798166155				
	書名	LinuC (リナック) レベル1スピードマスター問題集 : Version10.0対応				
	著者名	山本道子, 大竹龍史著	出版社	翔泳社	出版年	2020
	備考					

教科書・参考書に関する補足情報

教科書は講義内で指示しますが、各自ダウンロードをお願いします。
参考書の購入は必須ではありません。中央図書館にありますので必要に応じて参照してください。

コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=3468>

授業言語

資料 : 「日本語」
講義 : 「日本語」

2024 年度 後期 教養教育		日英区分:日本語
広報・PR入門		
■ 時間割コード	■ ナンバリング	■ 科目分野
LB2295	LB-1-IS0090-J	【教養教育】総合科目群
■ 担当教員（ローマ字表記）		
板橋 英之 [Itabashi Hideyuki], 宮本 俊一 [Miyamoto, Shunichi]		
■ 対象学生	■ 対象年次	■ 単位数
		2

■ 授業の目的

本講義では、広報・PRの基礎を理解するとともに、マスメディア向けの情報発信の方法や実践的な模擬取材などを体験し、高度情報社会において自らで主体的に課題を探索する能力を修得することを目的とする。

■ 授業の到達目標

広報・PRの基礎を理解し、メディアが多様化した現代社会において、自らで課題を探索する力を養うとともに、企画力、取材力、ライティング力を身に付けることができる。

■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

A：諸科学についての基礎的知識と理解 △
B：論理的・創造的思考力 ◎
C：コミュニケーション能力 ◎
D：社会的倫理観・国際性 ○
（◎：特に重視する ○：重視する △：評価対象 -：評価対象としない）

■ 授業概要

高度情報社会においては、自らで情報を整理しながら、課題を探索できることが重要である。広報・PRの基本的な概念を理解し、広報の観点から発信すべき情報を見極めたい。グループワークで群馬大学を広報するためのリーフレットを企画・提案し、プレゼンテーション力、取材力、ライティング力などを身に付けていく。全ての講義を新聞記者、企業広報の実務経験のある教員（宮本）が行う。

■ 授業の形式（授業方法）

基本的にはじめに講義を行い、その後グループワークを行う。グループワークでは、対話・討論、プレゼンテーション、模擬取材などを行う。

■ 授業スケジュール

第1回 群馬大学における広報の取り組み
・オリエンテーション
第2回 広報のあり方（1）
・メディアと広報
第3回 広報のあり方（2）
・プレスリリース演習
第4回 リーフレットの企画（1）
第5回 リーフレットの企画（2）
第6回 リーフレットの企画（3）
第7回 リーフレットの企画（4）
第8回 リーフレットの企画（5）
第9回 ゲスト講師講演＜担当：全国紙新聞記者（予定）＞
第10回 企画をプレゼン（1）
第11回 企画をプレゼン（2）
第12回 特別講演＜担当：板橋副学長＞
第13回 取材の進め方と原稿の書き方（1）
第14回 取材の進め方と原稿の書き方（2）
第15回 取材の進め方と原稿の書き方（3）

※受講生の理解度や履修人数によっては、内容・順番を見直す場合があります。

■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

・グループ内で議論し、プレゼンや企画書提出など課題に向けた準備をする。

■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

企画書作成、原稿執筆（50%） A・B・D

プレゼンテーション（30%） B・C

最終レポート（20%） A・B

■ 受講条件（履修資格）

■ メッセージ

本講義では、広報・PRの基礎を学ながら、企画、インタビュー、取材、編集等を体験し、高度情報社会において、情報の取捨選択や新たな課題発見ができるようになることを目指します。実社会での課題解決につながる実践力を身に付けてください。

■ キーワード

アクティブラーニング、実務経験、広報、マスメディア、記者

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=1876>

■ ■ 授業言語

日本語